

社会福祉法人 エンゼル福祉会
おたけの郷
2025 年度事業計画書

2025 年 3 月策定

社会福祉法人 エンゼル福祉会 基本理念

私たちは「尊厳と自立」に満ちた生活をおくるために、お客様が安心して利用できる、信頼度の高い介護サービスを提供する。

●計画策定の目的

2024 年度の介護報酬改定により、介護老人福祉施設・短期入所生活介護・居宅介護支援はプラス改定となったものの、近年の物価高騰等の影響からこれまで以上に「当たり前の事を当たり前に実施する」事が求められてくると考えます。国からの情報、世間の動向に目を向けながら入居者様、利用者様、ご家族様、地域の皆様に対し社会福祉法人としての責務を果たす事ができるよう、「現状の維持と更なる向上」を目指し運営に努めてまいります。

1.法令順守 ガバナンスの強化

改正された法令の内容をしっかりと把握し遵守しながら施設運営を心掛けていきます。
また、法人・施設内において決められたルールが遵守されるよう、ガバナンスを強化する事により決められたルールに則り動く事ができる組織作りを目指していきます。

2.介護人材の確保と定着 定着後の支援の質の向上と施設の風土づくり

2021 年度より OJT システムの再確立に向け力を注いできましたが、以降少しずつ仕組みの定着、人の定着に繋がっていると実感しています。ただし、応募数も年々減ってきていることから、入職した職員をいかに定着させていくか、そのうえで育成をしていくかが非常に重要であると考えます。人の採用に継続して力を注いでいく事はもちろんですが、「定着なくして育成なし」が前提である事を理解し、どのような仕組みを創りあげる事が職員の安心に繋がるのかを把握し実行したうえで、より質の高い職員を育成していく事に努めてまいります。

3.入居者の皆様の健康と安全 より質の高い生活の確保

協力医療機関の要件や ICT の有効活用などが重要視されている昨今、医療と密接に連携を図りながら健康に過ごす事ができるよう、ICT 等の機器を有効活用しながらより安全に暮らす事ができるように、といった事が求められてきています。また、ICT 機器を活用する事により職員個々の能力向上、空いた時間を生み出すといった事に注力し、入居者の皆様により質の高い生活を営んでいただけるよう努めてまいります。

おたけの郷 事業計画項目

- (1) 育成
- (2) 雇用(採用)
- (3) 事業別計画
 - I 特別養護老人ホーム
 - II 短期入所生活介護
 - III 居宅介護支援
 - IV その他

(1) 育成

2024 年度の振り返り

新型コロナウイルスが 5 類へと変更になった事により、コロナ禍ではなかなか実施する事ができなかった集合型の研修、外部研修への参加を多く実施できた。特にユニットリーダーに関しては全員が「介護職員スキルアップ研修 実践編」を受講した事により、課題抽出や問題解決の方法などを学ぶことができ、法人・施設としても数年先を見越したうえでの育成を行えたのではないだろうか。

【新たに入職した職員に対して】

- ・入社式への参加→おたけの郷 新入職員研修への参加→1.2 か月目評価の実施→試用期間評価の実施。
- ・試用期間評価日までの期間は、法人として義務付けられた OJT シートを必ず活用する。

【既存の職員研修】

1.法令にて義務付けられている研修の実施と参加（全職員対象）

①内部研修

【研修名】

委員会主催研修
食中毒予防・感染症対策研修
身体拘束廃止委員会研修
事故防止委員会研修
褥瘡防止委員会研修
食支援委員会研修
虐待防止委員会研修
看取り介護研修
災害対策訓練
感染対策訓練

これらを実施する事により、全職員が共通の知識・技術を身に着ける事を目指す。

②外部研修（必須研修 自己啓発研修）

- ・選択研修 前期・後期に分け各 1 講座、その他所属長指示による研修を 1 講座。
- ・認知症介護基礎研修（無資格の職員は入職 7 か月目に必ず受講。

※これらはグループ指定の個別研修計画書にて進捗管理を実施。

- ・ユニットケア施設管理者研修 … 2025 年度中に受講（2024 年度より努力義務）
- ・ユニットリーダー研修 … 2025 年度中に 1 名の受講。
- ・認知症介護実践者研修 … 2025 年度中に 1 名の受講。
- ・認知症介護実践リーダー研修 …2025 年度中に 1 名の受講。
- ・理学療法士、管理栄養士 施設ケアマネジャー… 2025 年度中に専門研修を 1 講座受講。

③グループ内合同研修の受講

- ・ 3 年目研修 ・ 7 年目研修 ・ 中途職員入社式 ・ 管理者合同研修
- 対象者は上記研修の受講。

④その他外部における研修を受講し、専門職として必要な知識・技術を習得していく。

2.人事考課制度

年間 2 回実施される人事考課面談では、評価する事だけを目的とせず、面談を通じて個々の課題を把握し、的確なアドバイスをもって一緒に課題に取り組む姿勢を持つ事を重要視し実施している。評価基準を明示化し透明性を図ったうえで、職員の成長度及び課題を確認していく。

【評価基準】

各職種、法人の評価基準を使用。

人事考課は必ず 3 者で実施し、仕事上の評価だけでなく普段から抱えている悩みや相談事などをヒアリングし、その問題についても同時に解消していく場としていく。これは、法人や施設に「不満を持ち退職する」事を減少させる重要な役割を果たしているため、離職防止にも役立てていく。

3.OJT 教育システム

- ①グループ合同の入社式に参加。
- ②おたけの郷 新入職員研修への参加。
- ③原則入職後 3 か月間は試用期間とし、OJT 担当者は OJT シートを使用しながら介護の基礎や法人のルールなどを教えていく。
- ④1 か月目、2 か月目に施設長とフロア責任者（もしくはプリセプター）、当該職員による面談の実施。習得状況の確認を行う。

⑤3 か月目に試用期間評価の実施。同時に能力評価表も使用し当該職員の現状確認を行う。

・OJT 担当者・・・ユニットリーダーもしくはフロア責任者が選任した職員とする。

なお、薬の業務に関しては 3 か月目～実施とする。

(2) 雇用（採用）

2024 年度の振り返り

2024 年度の目標

① 介護職員常勤換算数 75.0 名 入居者：介護職員配置 2.0：1。

② 全介護職員の公休出勤日数 0 日。

③ フロア責任者に就き 10 日間の管理業務日を設ける。

事を目標としてきたが、2023 年度と比較し採用活動が進まず上記の目標を達成する事ができなかった。

2025 年度 目標

以下の 4 点を重点目標として掲げ活動していく。

① 介護職員常勤換算数 75 名 介護職員配置を常勤換算 2.13

2024 年度（2025 年 1 月）職員配置状況と 2025 年度末計画（常勤換算数で表示）

職種名	2024 年 1 月現在	2025 年度末計画
施設長	1	1
介護職（外国人技能実習生含む）	70.8	75.0
看護職	8.7	8.0
施設介護支援専門員 （生活相談員兼務）	2.0	2.0
生活相談員（ショートステイ）	1.0	1.0
管理栄養士	1.0	1.0
作業療法士	1.0	1.0
居宅介護支援専門員	3.0	3.0
事務職	2.0	2.0
運転手・館内整備	2.65	3.0
障害者雇用	0.8	0.8

計	92.95	98.8
介護職：入居者割合	2.25：1	2.13：1
看護・介護職：入居者割合	2.01：1	1.92：1

【2024 年度 介護職員配置目標（常勤換算）】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
配置	73.0	73.0	73.0	73.0	74.0	74.0	74.0	74.0	74.0	74.0	75.0	75.0

②介護職員の「休日+残業時間数」を以下の通りとする。

	2024 年 1 月まで実績	「目標」2023 年度末
休日+残業時間数	10.83	9.0

- ② フロア責任者の管理業務日を月平均 5 日設け、運営に携わる時間を増やしより安定した運営を行えるよう努めていく。

●採用方法について

- ①求人媒体は、ハローワーク、採用課金型のWEB系サイトを利用。
- ②法人規程の職員紹介制度を活用。
- ③学校訪問に関してはグループ一体化推進本部と情報共有を行いながら進めていく。
- ④施設内の情報を発信し求職者へのアピールを実施。HPのblogは月に4回を最低更新し求職者に向けた情報発信を行っていく。
- ⑤ 外国人技能実習生について。10月に2名入国予定。2024年度末時点で7名が在籍しており計9名となるため、配属された技能実習生が日本語、介護に関して学ぶ事ができる機会を適宜設けながら特定技能に移行できるよう努めていく。

●離職防止

	離職率	人数
2022 年度	23.21%	26 名
2023 年度	21.70%	29 名
2024 年度 (2025 年 1 月現在)	15.74%	17 名
2025 年度末目標	12.0%	

2022 年度、2023 年度は非常に退職者が多かったため、2024 年度は OJT システムの見直しを強化したところ離職率が低下する形となった（2025 年 1 月時点）

計画策定の目的にも記載したように、法人として定めた OJT システムをしっかりと実施しながら職員の定着を目指していく。

（３）事業別計画

I 特別養護老人ホーム

2024 年度の振り返り

収入の安定を図るために、肺炎や骨折による入院者数の減少・空床期間の日数減少を主な目標としたが、入院数は約 30%程増加という結果になった。感染症（新型コロナウイルス、ノロウイルス）のまん延も一つの要因ではあるが、誤嚥性肺炎、転倒による骨折も増加した形となった。口腔内評価に関する義務付けがなされており、介護職員による評価が必須となっている事も含め、口腔ケアへの意識向上、確実に適切な実施をしながら誤嚥性肺炎の予防に努めていきたい。

また、転倒・転落事故に関しても増加傾向にある事から、事故防止委員会のメンバーを筆頭に、確かな原因分析、再発防止策の立案を行う事、見守りセンサー付きのベッド（ICT 機器）の導入により、入居者の皆様が安全に暮らし続ける事ができるようにしていく。

空床期間に関しては増加してしまった形となった。これは、入居に必要な書類（主に診療情報提供書）の遅れが要因となっているため、2024 年度は入居予定者の主治医、ご家族、ケアマネジャーとの連携をより迅速に行っていけるよう努めていきたい。

また、報酬改定において新規加算が創設された事を受け、算定要件をしっかりとみなしご入居者様の生活の質の向上を目指しながら、新たな加算を取得していく。

	2022 年度	2023 年度	2024 年度 (1 月時点実績)
平均稼働率	96.2%	95.9%	94.9
入院者数	1,543 日	1,252 日	1,502
空床期間	498 日	日	
入居数／退居数	42／41	44／45	43／42

【2025 年度目標】

- ・平均稼働率目標を 96.5%以上とする。
- ・空床期間を平均 10 日以内とする。

- ・入院総日数を 1,000 日以下とする。

Ⅱ 短期入所生活介護

2024 年度の振り返り

より多くの区民の皆様にご利用いただくために、「定期的な広報誌の発行」と「定期的な居宅介護事業所周り」「緊急受け入れを積極的に実施」を継続して行ってきた結果、2021 年度のより徐々に稼働が上昇しているものの、未だに 100%に達するような状況とはなっていない。次年度は、更に多くの方にショートステイを「安全に」「楽しく」利用していただけるよう、【頼りがいがあり、且つ有意義な時間を過ごす事ができる事業所】を目指し、各職員の育成、余暇活動の充実に力を入れていきたい。

2022 年度 2023 年度 2024 年度（1 月末時点）比較

	2022 年度		2023 年度		2024 年度（1 月時点）	
	総日数	新規	総日数	新規	総日数	新規
荒川区	4143	87	4851	114	4586	98
台東区	324	11	160	5	236	5
北区	413	0	295	9	106	2
その他	141	3	261	3	126	1
合計	5021	101	5567	131	5054	106
稼働率	66.9%		76.1%		83.0%	

●外部への営業活動、情報発信の拡充

- ①毎月、ショートステイ単独の広報誌を発行。
- ②発行した広報誌を直接、各居宅介護支援事業所へ持参。
※広報誌には「おたけの郷のショートステイを利用したい」と思っていただけのような内容を記載。
- ③緊急受け入れの積極的実施。
- ④定期的な各種会議、研修の実施。

上記を実施したうえでの

2025 年度目標 年間平均稼働率を 86.5%以上とする。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総計	平均
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31		
述べ	504	521	504	521	558	540	546	528	546	533	482	533	6314	526

人数														
稼働	84%	84%	84%	84%	90%	90%	88%	88%	88%	86%	86%	86%		80.0%

おたけの郷の特徴としては看護師の配置時間や特別養護老人ホームと併設している事から、医療ニーズに対しての受入や緊急入所の受入についても外部のケアマネジャーから高い評価をうけていると考えられる。目標値は堅実なものとし、確実に達成できるようなやるべき事は行いながら稼働の向上を目指していく。

Ⅲ居宅介護支援事業

2023 年度 2024 年度（1 月末時点）比較

※ケアマネジャー3 名在籍

	2023 年度	2024 年度 (1 月末時点)	2025 年度 目標値
介護 給付数	91	76	96.0
予防 人数	24	17	24.0
新規	14	35	36.0
認定調査	0	3.9	5.0

Ⅳその他

●経費削減

2021 年度から 2022 年度にかけて、物価高騰の影響から水光熱費が約 15,000,000 円上がる形となった。これを受け全館において経費削減に向け取り組んできた結果、2023 年度は大幅に使用量が削減できたものの、2024 年度は再び使用量、利用料金共に増加傾向となってしまった。2025 年度もは再度全館において取り組みを強化し、無駄な使用を控えながら経費削減に取り組んでいきたい。

水道・ガス・電気使用量に関して

	2022 年度	2023 年度	2024 年度 1 月末時点	2025 年度 目標
水道使用量(上下水)	38.993 m ³	40.713 m ³	34,379 m ³	35,000 m ³
電気使用量	1,065,928 kwh	914,707kwh	800,237 kwh	1,000,000kwh
ガス使用量	40.319 m ³	38,181 m ³	36,919 m ³	36,000 m ³

●2024 年度目標 服薬事故件数 0 件とする。

- ・ 2022 年度・・・56 件
- ・ 2023 年度・・・28 件

薬の事故は直接生命に関わり、100%職員が起因とする種別の事故であり、起きてしまった要因を探っていくとその殆どが手順を遵守していない事や、ある特定の職員が複数回発生させている背景がある。発生要因をしっかりと分析し、施設全体が絶対に妥協しない・絶対に発生させないという意識改革も併せて実施し服薬事故 0 件に努めていく。

●転倒事故の原因分析、再発防止策の立案を徹底し、転倒・転落事故予防に努める。

2024 年度は 2023 年度に比べ転倒・転落事故が非常に多い 1 年となった。ご入居者様の状態像にもよる事柄ではあるが、居室環境や福祉用具の環境による事故も多くあるため、毎月事故防止委員会を確実に開催し全館の事故の状況を共有しながら、原因分析と再発防止策の立案から実施、また ICT の機器の導入を行いながら事故予防に努めていく。

●家族・地域や外部への取り組み

- ・ ご家族に対して
 - ① 毎月 1 度の広報誌の発行。
 - ② 家族懇談会の開催
- ・ 地域に対して
 - ①おたけ祭りの開催（感染症の流行状況による）
 - ②自治会合同避難訓練への参加。
 - ③おもちゃ図書館の定期開催（原則毎週水曜日）
 - ④近隣自治会へパブリックスペースの開放。
 - ⑤駄菓子屋の開店。
 - ⑥車椅子貸し出しステーションとして地域に貢献。

●災害への備え

2024 年 1 月に能登半島地震が発生、引き続きコロナウイルスやインフルエンザ、感染性の胃腸炎が全国的にまん延するなど今後、災害・感染症への備えは重点的に行うべきであると考え
る。策定された B C P の内容の理解、周知は当然の事、毎年 2 度実施する避難訓練に関しても、この B C P の内容を取り入れながらいざという問いに迅速に行動する事ができるよう備えていきたい。

また、おたけの郷は近隣住民の避難場所ともなっており、定期的に行われる荒川区との通報訓練

への参加や、非常食の備蓄量などもしっかりと管理し、地域の皆様にとっても安心できる場である事ができるよう努めていく。